

# 令和2年度 事業報告書

一般社団法人 日本エレクトロニクスショー協会

# 令和2年度 事業報告

一般社団法人 日本エレクトロニクスショー協会

## 1. 法人総括報告

国内の多くの企業と同様に、当協会も令和2年の2月から国内にて猛威を振るう「新型コロナウイルス感染症」の影響を受け、受託主要事業である「CEATEC 2020」、「Inter BEE 2020」の幕張メッセ会場での開催の中止を決定し、Webサイトを活用したオンラインでの初めての展示会運営に切り換えた。主催者と緊密に連携し、出展企業のコロナ禍での社会対応の一助に貢献することを目指し、更に、Society 5.0を基軸に置き、低迷する経済活動を支援するために関係省庁、国内外の関係団体ならびに関連産業との連携を緊密化し、業界団体が主催するオンラインでの新たな国際ビジネス展示会の企画、運営に努めました。残念ながら、当協会主催で5月に開催予定であった「After NAB Tokyo」に関しては、緊急事態宣言下と言う状況で、開催を中止とした。

事務局内運営では、この感染症の対応として、在宅勤務を基本とし、国・東京都等の指導に基づく業務形態に切り換え、協会の継続的な運営を維持するために、徹底した経費削減に努めました。

## 2. 協会運営事業実施報告

総会、理事会、運営役員会等の当協会運営に関する重要事項を審議する会議に関しては、新型コロナウイルス感染症の対策として、書面審議、メール審議を基本として、次の通り開催し、協会運営事業を円滑に実施した。

### (1) 総会

- 第15回通常総会(書面審議)(令和2年6月12日)を開催し、次の議案を決議した。
  - ・令和元年度事業報告及び決算報告承認の件
  - ・令和2年度事業計画(案)及び収支予算(案)承認の件
  - ・役員選任の件

### (2) 理事会

- 第48回書面理事会(令和2年5月11日)を開催し、次の審議事項を承認した。
  - ・令和元年度事業報告(案)承認の件
  - ・令和元年度決算報告(案)承認の件
  - ・役員選任の件
  - ・書面審議による第15回通常総会の議案承認の件
  - ・会員企業入会審議承認の件
- 第49回書面理事会(臨時)(令和2年5月25日)を開催し、次の審議事項を承認した。
  - ・役員選任案修正の件
  - ・書面審議による第15回通常総会の議案承認の件
- 第50回書面理事会(令和2年6月12日)を開催し、次の審議事項を承認した。
  - ・代表理事の選定
  - ・会長・副会長の役職役員の選定

- 第 51 回書面理事会（令和 2 年 11 月 17 日）を開催し、次の審議事項を承認した。
  - ・令和 2 年度事業計画変更(案)承認の件
  - ・令和 2 年度収支予算案変更(案)承認の件
- 第 52 回書面理事会（令和 3 年 3 月 24 日）を開催し、次の審議事項を承認した。
  - ・令和 2 年度収支予算（一部変更）承認の件
  - ・令和 3 年度事業計画(案)承認の件
  - ・令和 3 年度収支予算(案)承認の件
  - ・会員企業入会審議の件
  - ・理事への特別報酬支給の件

### (3) 運営役員会

- 第 49 回運営役員会(令和 2 年 5 月 11 日)をメール審議にて開催し、次の事項を審議した。
  - ・第 48 回書面理事会議案の件
  - ・第 15 回通常総会議案の件
  - ・第 49 回書面理事会議案の件
 ※後日、5 月 25 日に臨時の理事会を開催し、第 50 回に変更
- 第 49 回(5 月 25 日臨時)書面理事会の開催に際して、電話、メールによる次の事項の承認。
  - ・第 49 回(5 月 25 日臨時)理事会開催及び議案の件
 並びに、5 月 11 日付け承認済みの第 49 回(旧回数)書面理事会の第 50 回への変更の件
- 第 50 回書面運営役員会(令和 2 年 11 月 12 日)を開催し、次の事項をメール審議した。
  - ・第 51 回理事会の開催方法に関する件
  - ・第 51 回書面理事会議案の件
- 第 51 回書面運営役員会(令和 3 年 3 月 17 日)を開催し、次の事項をメール審議した。
  - ・第 52 回理事会の開催方法に関する件
  - ・第 52 回書面理事会議案の件

## 3. 展示会事業実施報告

### 3-1. 「CEATEC 2020 ONLINE」

#### (1) 実施状況

CEATEC 2020 は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、通常開催（幕張メッセでの開催）を中止し、オンラインを活用した開催とするため、展示会名称も「CEATEC 2020 ONLINE」とし、開催した。会期は 10 月 20 日（火）から 23 日（金）までの 4 日間とし、その後は、アーカイブ期間として 12 月 31 日まで情報公開を行った。

今回で 21 回目を迎える「CEATEC」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でオンライン開催となったが、コンセプトや開催テーマは通常開催と同様に「つながる社会、共創する未来」をテーマに「未来の社会を世界に向けて描く Society 5.0 の展示会」として未来社会のデザインを広く発信した。

また、社会のあり方や価値観、行動様式が変わりつつある日常生活における課題の解決が求められている中で、「CEATEC 2020-Toward Society 5.0 with the New Normal / (New Normal

(ニューノーマル) 社会と共に歩む CEATEC)」をオンライン開催の推進スローガンとして掲げ、多くの産業界からその「New Normal 社会」への提案を行い、共創を促す場として位置づけた。本年の開催規模は、出展者数 356 社/団体 (うち海外: 20 カ国/地域から 71 社/団体)、開催期間中の延べ入場者数は、合計で 130,661 名であった。開催期間中来場した報道関係者は 467 名。CEATEC に関する情報が連日国内外のオンラインニュース、テレビ、新聞等で発信された。開催初日となる 10 月 20 日(火)は、午前 10 時より、日本経済新聞社が主催する「AI/SUM&TRAN/SUM」と連携し、日本橋・三井ホールにて、オープニングセレモニーを実施。CEATEC 実施協議会 石塚茂樹会長による主催者代表挨拶と、後援団体である一般社団法人日本経済団体連合会 山西健一郎副会長より、ご挨拶をいただいた。また、同日、午後 1 時 30 分より、主催団体の一般社団法人 電子情報技術産業協会の会議室において、CEATEC AWARD 2020 大臣賞表彰式を開催。来賓として、経済産業大臣 梶原弘志様、総務副大臣 新谷正義様をお迎えして、受賞企業に対して直接賞状と盾を贈呈した。また、この表彰式に合わせ、経済産業大臣 梶原弘志様と総務副大臣 新谷正義様には、出展内容を紹介するオンラインツアーを実施し、各社がニューノーマル社会に向けた各種の提案を行った。本年のコンファレンスプログラムは、テーマごとにチャンネル分けて行った。10 月 20 日(火)はキーノートスピーチとして、日本橋・三井ホールにて、ソニー(株) 代表執行役 副会長 石塚 茂樹 氏、慶應義塾大学教授 村井 純 氏、日本電気(株) 取締役 会長 遠藤 信博 氏による講演を実施した。また、海外からは、オンラインにて Zoom Video Communications, Inc. 創業者 兼 CEO エリック ユアン 氏の講演を皮切りに、Treasure Data 創業者 芳川 裕誠 氏、ZVC Japan(株) (Zoom) カントリーゼネラルマネージャー 佐賀 文宣 氏、WeWork Japan 合同会社最高戦略責任者 高橋 正巳 氏、(株) ブイキューブ 代表取締役社長 Founder & CEO 間下 直晃 氏の講演とパネルディスカッションを開催した。本年は、会期 4 日間にわたって 81 セッションを配信し、合計で延べ 105,000 名ほどの聴講があった。

## (2) 収支報告

本年は、出展者数 356 社が、オンラインにて参加し、その出展小間料および広告・施設関連収入を含む本事業の収益合計は、191,740,000 円となった。それに対する事業費支出は、88,098,200 円となり、法人運営(人件費、事務所家賃等)の振替 85,000,000 円を加算した支出合計は、173,098,200 円となったため、単年度の収支差引は、18,641,800 円となった。当該事業は、前年度、4,214,822 円の赤字となり、第 47 回書面理事会において、その赤字を法人全体の繰越金にて補填する処置を決議し対応したため、上記の収支差額より、4,214,822 円を法人に返還し、次年度への繰越額は、14,426,978 円となった。

### (3) 展示構成

本年のオンライン開催に伴い、展示構成を一新した。

#### 展示構成

■ニューノーマルエリア（ニューノーマルソリューションズ、ニューノーマル社会を支える要素技術・デバイス、ニューノーマル時代のデジタルまちづくり）

感染症との共存を前提に、「人々の暮らし」を持続的に維持・発展させるための新たなソリューションやサービスをテーマごとに紹介するエリア。

■企業エリア（プレミアム、スタンダード、ベーシック）

自社ブランドやソリューション、サービス、製品やデバイス、電子部品を全面的にアピールするエリア。

■Co-Creation PRAK

設立9年以下の国内外のスタートアップと教育機関を対象としたエリア。

### (4) CEATEC AWARD 2020

CEATEC AWARD 2020 は、開催テーマ「つながる社会、共創する未来」のもとに、CPS/IoT による「Society 5.0」の実現を目指し、ニューノーマル社会への提案を含め、新たな価値と市場の創造・発展に貢献、関係する産業の活性化に寄与することを目的に「CEATEC AWARD 2020」を実施した。

#### 受賞結果

##### 総務大臣賞

スーパーコンピュータ 富岳  
富士通 株式会社／理化学研究所

##### 経済産業大臣賞

マイクロ RNA 検出技術  
株式会社 東芝

#### 部門賞

##### ニューノーマル ソリューションズ部門賞

###### ■グランプリ

透明ディスプレイ パーティション  
シャープ 株式会社

###### ■準グランプリ

シミュレーテッド分岐マシン  
株式会社 東芝

##### ニューノーマル社会を支える要素技術・デバイス部門賞

###### ■グランプリ

タッチレス操作パネル  
アルプスアルパイン株式会社

###### ■準グランプリ

AR グラス用 超小型フルカラーレーザーモジュール  
TDK 株式会社

## ニューノーマル時代のデジタルまちづくり部門賞

### ■グランプリ

ピエゾ環境発電によるホイール完結型センシング  
TDK 株式会社

### ■準グランプリ

IoT 時代の白物家電の待機電力極小化に貢献する、業界初のゼロクロス検知 IC  
BM1ZxxxFJ シリーズ  
ローム 株式会社

## オープン部門賞

### ■グランプリ

IoT ネットワーク社会を支えるコインサイズの振動発電器  
技術研究組合 NMEMS 技術研究機構／国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

### ■準グランプリ

非振動型広帯域超音波発生デバイス  
株式会社 村田製作所

## Co-Creation PARK 部門賞

### ■グランプリ

人工知能による胃がん内視鏡画像読影支援システム  
株式会社 AI メディカルサービス  
国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

○受賞内容は、会期中公式サイト内に特設ページを設け、各社の研究開発意識の高さと受賞の栄誉を称え、受賞内容を大々的に展開、CEATEC の見どころとして紹介した。

## (5) 出展者数/入場者数

### ○出展者数

<b>企業エリア</b>	<b>158</b>
プレミアムプラン	35
スタンダードプラン	52
ベーシックプラン	71
<b>ニューノーマルテーマエリア</b>	<b>63</b>
ニューノーマルソリューションズ	25
ニューノーマル社会を支える要素技術・デバイス	23
ニューノーマル時代のデジタルまちづくり	15
<b>Co-Creation PRAK</b>	<b>135</b>

### ○海外出展状況

20 ヶ国/地域・71 社/団体

アジア地域・5 ヶ国/地域・23 社/団体、北米地域・2 ヶ国/地域・14 社/団体、  
欧州地域・9 ヶ国/地域・25 社/団体、中東地域・2 ヶ国/地域・7 社/団体、  
中南米地域・2 ヶ国/地域・2 社/団体

○延べ入場者数

	10月20日(火)	10月21日(水)	10月22日(木)	10月23日(金)	合計
延べ入場者数	31,461	39,588	31,459	28,153	130,661

○コンファレンス延べ聴講数

10月20日(火)～10月23日(金)4日間 合計：105,210

**(6)アーカイブ期間概要**

10月24日(土)～12月31日(木)までのアーカイブ期間には、25,939名の延べ入場数があった。会期中の130,661名と合計すると156,600名となった。

12月22日(火)には、「CEATECアフターイベント」として、次の2セッションを開催し、CEATEC 2020 ONLINEのニューノーマル関連の出展内容の振り返りを行い、聴講者数は、1,855名となり、延べの聴講者数は120,847名となった。

セッション1

「ニューノーマル/トータルな提案の振り返り」

講師会社：(株) コア/東芝デジタルソリューションズ(株) / (株) 村田製作所

モデレーター：(株)MM 総研代表取締役所長 関口 和一 氏

セッション2

「ニューノーマル/スタートアップ企業からの提案」

講師会社：(株) パリティ・イノベーションズ/ (株) カムビアス

モデレーター：(株)MM 総研代表取締役所長 関口 和一 氏

**3-2. 「Inter BEE 2020 ONLINE」**

**(1) 実施状況**

「Inter BEE 2020」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、通常開催(幕張メッセでの開催)を中止し、オンラインを活用した開催とするため、展示会名称も「Inter BEE 2020 ONLINE」とした。

会期は11月18日(水)から20日(金)までの3日間とし、その後はアーカイブ期間として、2月28日まで情報公開を行った。

今年で56回目を迎えるInter BEEは、最新の映像・放送・通信・音響・照明・メディアビジネスの最新情報とイノベーションが一堂に集まる「メディア総合イベント」として、ニューノーマル社会への転換が求められる中、本年はメディア・エンターテインメントに関わる各社のさまざまな試みや取り組みを広く発信した。

本年の開催規模は、出展者数140社/団体(うち海外:5カ国/地域から12社/団体)、開催期間中の延べ入場者数は、27,000名であった。

開催期間中来場した報道関係者は175名、InterBEEに関する情報が連日国内外のオンラインニュース、テレビ、新聞等で発信された。

開催初日となる11月18日(水)は、午前10時より、開会に際し、主催者の一般社団法人 電子情報技術産業協会 石塚茂樹会長による代表挨拶を行った。

本年のコンファレンスプログラムは、基調講演を3日間開催、InterBEE FOURMとして、11月

18日(水)に総務省 情報流通行政局長 秋本 芳徳 様、日本放送協会 副会長 正籬 聡 様、(株) TVer 代表取締役社長龍宝 正峰 様の講演を実施。

会期3日間にわたり、およそ75セッションを配信し、合計で延べ36,242名の聴講があった。

## (2) 収支報告

本年は、出展者数140社が、オンラインにて参加し、その出展小間料および広告・施設関連収入を含む本事業の収益合計は、75,450,000円となった。それに対する事業費支出は、46,595,439円となり、法人運営(人件費、事務所家賃等)の振替55,000,000円を加算した支出合計は、101,595,439円となり、単年度の収支差引は、26,145,439円の赤字となった。当該事業には、前期からの繰越金が28,488,290円有り、単年度の赤字を補填し、次年度に2,342,851円を繰越すこととなった。なお、前述の「2. 協会運営事業実施報告」の(2)理事会の3月24日第52回書面理事会の第1号議案「令和2年度収支予算(一部変更)承認の件」にて、本年度のみ、法人運営の振替額を55,000,000円に変更する旨の承認を行った。

## (3) 展示構成

本年のオンライン開催においても、従来の部門構成を維持し、開催した。

展示構成

- ・プロオーディオ部門  
オーディオ機器/MA・スタジオ用システム/PA・ライブシステム/ラジオ放送用システム/  
ハイエンドコンシューマ機器
- ・映像表現/プロライティング部門  
大型映像装置/映像表現技術/デジタルサイネージ/デジタルコンテンツ/ライブビューイング/  
ライブエンターテインメント/舞台・屋外照明機器/スタジオ照明機器
- ・映像制作/放送関連機材部門  
各種放送関連機器、サービス等/プロダクション関連/各種特機・周辺製品/放送機器トータル  
システム/ポストプロダクション関連/出版・パブリシティ
- ・ICT/クロスメディア部門  
クラウド/モバイルネットワーク/動画制作/動画配信/放送サービス/デジタルシネマ/広告・  
マーケティング/視聴デバイス/他産業向け 4K8K 技術

## (4) 特別企画

本年の特別企画は、コンファレンスにて情報展開を図った。

「INTER BEE EXPERIENCE」、「INTER BEE CONNECTED」、「INTER BEE IGNITION」、  
「INTER BEE CREATIVE」、「INTER BEE IP PAVILION」に加え、本年より  
「INTER BEE X-Cinema」を実施し、合計で35セッションを配信した。



## (5) 出展者数/入場者数

展示部門	出展者数		
	日本	海外	合計
プロオーディオ部門	23	2	25
映像表現/プロライティング部門	2	5	7
映像制作/放送関連機材部門	88	5	93
ICT/クロスメディア部門	15	0	15
合計	128	12	140

### ○海外出展者の内訳

中国 6、台湾 1、香港 1、アメリカ 2、イギリス 1、ドイツ 1

### ○入場者数

	11月18日(水)	11月19日(木)	11月20日(金)	合計
国内登録入場者数	10,599	9,309	7,645	27,553
海外登録入場者数	147	112	81	340
合計	10,746	9,421	7,726	27,893

### ○コンファレンス聴講者数

11月18日(水)～11月20日(金) 3日間 合計: 36,242名

## (6) 同時開催

### ①デジタルコンテンツ EXPO 2020(主催: 一般財団法人デジタルコンテンツ協会)

デジタルコンテンツ EXPO 2020 は、新たな市場を創り出したばかりの、またその可能性を秘めた、先端技術やコンテンツを体験する多様な展示を中心に、第一線で活躍する専門家、研究者、クリエイターによる講演などを通して、新しいアイデアに触れ、新しい人と出会い、新たなビジネスやクリエイションの可能性を見出していただく未来創造の場として開催し、出展者数は、31社であった。

### ②民放技術報告会(主催: 一般社団法人 日本民間放送連盟)

本年度で第57回を迎えた民放技術報告会は18社63件となり、このうち44件については、プレゼンテーション動画を事前収録し、Inter BEEの公式ウェブサイト上でタイムテーブルに沿って順次配信した。19日午後には「特別企画」として「放送技術者は同時配信で何をすべきか～在京5社総務省実証実験を紹介!～」と題した講演およびパネルディスカッションを配信した。

## (7) アーカイブ期間概要

11月21日(土)～2月28日(日)までのアーカイブ期間には、4,010名の登録入場があった。アーカイブ期間中は、Inter BEE 2020 ONLINEで配信したセッションの中から議論の延長戦として4セッションを行った。聴講者数は、2,232名となった。

1月19日(火) 「異業種に学ぶビジネスモデル革命・延長戦」

講師会社: (株) TVer / (株) メディアコラボ

- モデレーター：メディアコンサルタント 境 治 氏
- 1月26日（火） 「テレビマンと考えるXRの価値、新たなエンタメステージのあり方」  
講師会社：(株)博報堂DYメディアパートナーズ／日本テレビ放送網（株）  
／（株）テレビ朝日／TELASA（株）  
モデレーター：(株)HEART CATCH代表取締役 西村 真里子 氏
- 2月2日（火） 「CONNECTED 延長戦・激論！テレビは一周回ったか？」  
講師会社：(株)電通／（株）ワイズ・メディア  
モデレーター：メディアコンサルタント 境 治 氏
- 2月16日（火） 「【RKB毎日放送・静岡放送・テレビ東京】20代テレビ局員が語る  
テレビのこれから～XR, Clubhouse, 新たなファンエンゲージメント」  
講師会社：(株)テレビ東京／RKB毎日放送（株）／（株）静岡放送  
モデレーター：（株）HEART CATCH代表取締役 西村 真里子 氏